

## 第3・4学年 図画工作科学習指導案

立案者 藤本 賢春 (2022 年度制作)

### 1 題材名 友だちと☆思いやり王国へGO! (人権ポスターづくり)

(絵や立体, 工作)

〈A 表現 (1) イ (2) イ, B 鑑賞 (1) ア, 共通事項 (1) ア, イ〉

### 2 題材設定の理由

徳島県の小学校では、1学期に「人権ポスターづくり」が全学年で実施されている。(隔学年で実施している学校や、夏休みの宿題として実施している学校もある) この学習の目的は、「あいぽーと徳島 徳島県立人権啓発推進センター」のホームページ内で、「徳島県内の小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校の児童生徒を対象に、人権に関する作品(意見発表に係る作文, 作詩作曲, 標語ポスター)を募集し、入賞作品の表彰・展示を行うとともに、様々な学習教材や啓発資料などに活用して、県民の人権意識の高揚を図り、人権教育・啓発の推進に資することを目的として実施しています。」と示されている。

また、京都府がホームページ「京都人権ナビ」内で示している「府内の小・中学校及び高等学校の児童・生徒が、人権をテーマとしたポスター(絵画)の制作を通じて基本的人権について理解を一層深め、人権尊重の精神を養う機会とするため」といった目的も「人権ポスターづくり」をする上で大切になってくることだと考える。

このような目的の下、本県では「人権ポスターづくり」が実施されているのだが、多くの教員はこの指導の在り方で頭を悩ませている。このことは、図工の研修会で実施したアンケート結果からうかがえる。主な悩みとして、「①みんな同じような作品になってしまう」ことや「②作品をつくるためだけの時間になってしまっている」こと、「③なかなか描き始められない子供が出てしまう」ことや「④もっと、他のことをする図工の時間をとりたい」こと、「⑤子供に人権ポスターづくりの意欲を感じられない」ことなどが挙げられていた。①や②や⑤に関しては、図工の目的、人権ポスターづくりの目的の両方に沿っていないのではないかと考えられる。そこで、中学年においてこれらを解決できる題材がどのようなものであるか考え、本題材を設定した。

本題材は、「道徳の時間と連携しながら」進めていく。理由は、図工の時間だけでは、人権ポスターづくりの目的を達成することが難しいと考えたからだ。道徳の時間には「親切、思いやり」に関する学習をし、「どのような行動をとることが、親切で思いやりのあることになるのか」について考えさせる。そして、その考えを出し合わせる中で、子供一人一人が思う「親切、思いやり」にあたる行動についてのイメージを膨らませ、人権ポスターづくりの目的を達成できるように導いていく。その後、膨らませたイメージを基にして、図工の時間に「親切と思いやりでいっぱい『思いやり王国』へ行こう!」と子供にもちかける。そして、親切と思いやりでいっぱいの「この王国の人はどんな人かな」、「この王国には何があるかな」と問えば、子供は道徳の時間に考えたことに想像も加えて、子供らしい発想でいろいろと意見を出すだろうと考えている。例えば、現実世界には思いやりの木はないが、思いやり王国になら「色とりどりのハートが実っている木」があってもおかしくない。このように、現実の世界から離れることができる「思いやり王国」を設定してやることで、子供は想像力を目一杯に働かせ、いろいろな考えを出しながらこの活動を楽しむだろうと考える。なお、この設定は「親切、思いやり」にあたる行動の一つとして考えられる「車椅子に乗った人を押している様子を描くこと」のような写実的な表現を難しいと感じている子供たちを救うことにもなるだろう。結果、前段で示した①や②や⑤は解決し、図工の目的と、人権ポスターづくりの目的の両方とも達成できるのではないかと考える。残りの悩み事として挙げられていた③や④については、次のような指導を通して解決を図っていく。

「③なかなか描き始められない子供が出てしまう」ことについては、道徳の時間中に子供一人一人の「親切、思いやり」にあたる行動についてのイメージを膨らませることや、「思いやり王国」の設定により、おおよそ解消されるだろうと考えている。後は、前段でも述べた「描きたいイメージは膨らんでいても、そのイメージを絵に表すことが難しいと感じ、手を止めてしまう子供が出てくること」への手立てが必要だと考える。その手立てとして、教師があらかじめ適切な資料を用意しておいたり、タブレット端末による資料の検索方法を教えておいたりすることが考えられる。このように資料を活用できる環境を作ることで、「写実的な表現が必要だが、イメージだけでは描き始められずに手が止まってしまっていた子供」も、自分がイメージした「親切、思いやり」にあたる行動を基にして、次へ次へと描き進められるようになるのではないかと考える。もう一つの手立てとして、簡単な図や言葉を用いて、子供が想う「思いやり王国」についてのイメージをまとめ、整理する時間を作ってやることも考えられる。この手立てをとる理由は、中学年の子供が、ある程度自分のイメージを整理・確認してから描き始めたいと思うようになってくるためだ。この手立てをとることで、なかなか大きな画用紙上へ自分のイメージしたことを表現し始められなかった子供が一步踏み出しやすくなり、「③なかなか描き始められない子供が出てしまう」ことへのさらなる対策になると考える。そして、ここまで述べてきたような活動をすれば「④もっと、他のことをする図工の時間をとりたい」という悩みも解消されると考える。教師主導で子供に描かせようとする、一つ一つ指示を出しながら一斉指導していくため相当時間がかかるが、子供が主体的に表現していく活動になればそれほど時間はかからない。

その後は、既習の「にじんで広がる色の世界(開隆3・4上:平成31年検定済教科書)」や、「絵の具でゆめもよう(日文3・4下:平成31年検定済教科書)」などで学んだ表現方法を思い出させ、それらを活用できる環境下で製作させる。既習の表現方法とは、絵の具を多めの水の上に少しつけてにじませたり、スタンプングや霧吹き絵などのモダンテクニックを使ったりすることである。子供たちには、これらの表現を上手く活用しながら、自分が想う「思いやり王国」を楽しく絵に表してほしい。他に、子供が想う「思いやり王国」を表現するための助けになるだろう色紙やろうそく、クレヨンやコンテ、ラメやそれ以外の材料や用具なども用意しておきたい。教師は、子供一人一人が想う「思いやり王国」のイメージにできる限り寄り添いながら、人権ポスター指導をしていく。

このように、子供一人一人が想像を広げ「思いやり王国」を工夫しながら絵に表し、それにふさわしい文字を描き入れたり、貼り入れたりすることで、人権ポスターづくりの目的の達成とともに、図工が目指す「子供の創造性を育成する」ことも達成できると考える。なお、出来上がった作品は、図工の時間に「造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方」などについて友達同士で感想を出し合い、子供一人一人の見方や感じ方を広げるために活用する。そして、道徳の時間に、この「親切と思いやりでいっぱい国」を表した絵を通して、子供一人一人の「基本的人権についての理解を一層深め、人権尊重の精神を養う機会」とし、「人権意識の高揚を図り、人権教育・啓発の推進に資すること」につなげていく。そうすることで、中学年における人権ポスターづくりが実現すると考える。

### 3 題材の目標

- (1) 自分が想う「思いやり王国」を絵に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

(知識及び技能)

- (2) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、想像したことから表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように「思いやり王国」を表すかについて考えるとともに、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3) 自分が想う「思いやり王国」を表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

#### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。</li> <li>自分が思う「思いやり王国」を絵に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、想像したことから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように「思いやり王国」を表すかについて考えている。</li> <li>自分たちの作品やその製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくりだす喜びを味わうとともに、自分が思う「思いやり王国」を進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

#### 5 指導と評価の計画（道徳2時間、図工5時間）

図工での指導に入る前に、道徳の時間を使い「B主として人とのかかわりに関すること」の「親切、思いやり」について指導を行う。そして、「どのような行動をとることが、親切で思いやりのあることなのか」について考える中で、子供一人一人の「親切、思いやり」にあたる行動についてのイメージを膨らませたい。その後は図工の時間に、子供一人一人が膨らませた「親切、思いやり」に関するイメージを絵に表すことができるよう、次のような指導と評価を行い実践していく。

なお、作品が完成した後には、図工の鑑賞とは別に、道徳の時間に「作品づくりを通して、基本的人権についての理解が深まり、人権尊重の精神を養うことができたか」や「友達の作品を見て、人権意識の高揚を図ることができたか」といった観点から本活動を振り返る。

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が考える「思いやり王国」を主体的に考えたり、想像を広げたりしながらアイデアスケッチをする。</li> <li>「思いやり王国」に関する自分のイメージから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表わせばよいか考えてアイデアスケッチをする。</li> </ul>	<p><b>態</b> ○</p> <p><b>思</b> ○ (発想や構想)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が考える「思いやり王国」を主体的に考えたり、想像を広げたりしながらアイデアスケッチに取り組もうとしているか観察する。 (観察・発言・対話)</li> <li>「思いやり王国」に関する自分のイメージから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表わせばよいか考えてアイデアスケッチをしている様子を観察する。 (観察・発言・対話)</li> </ul>
2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアスケッチしたことを基に、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように「思いやり王国」を表わせばよいか考える。</li> </ul>	<p><b>思</b> ◎ (発想や構想)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアスケッチしたことを基に、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように「思いやり王国」を表わせばよいか考えている様子を観察し、記録に残す。 (観察・発言・対話)</li> </ul>

2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が想う「思いやり王国」を絵に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫する。</li> <li>・自分の感覚や作品づくりを通して、自分が想う「思いやり王国」にふさわしい形や色などの感じが分かる。</li> </ul>	<p><b>技</b> ◎</p> <p><b>知</b> ◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が想う「思いやり王国」を絵に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫している様子を観察し、記録に残す。 (観察・作品・対話)</li> <li>・自分の感覚や作品づくりを通して、自分が想う「思いやり王国」にふさわしい形や色などの感じが分かっているか観察し、記録に残す。 (観察・作品・対話)</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達の「思いやり王国」の絵を見合いながら、それらのよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。</li> </ul>	<p><b>思</b> ◎ (鑑賞)</p> <p><b>態</b> ◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達の「思いやり王国」の絵を見合いながら、それらのよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている様子を観察し、記録に残す。 (観察・作品・対話・ワークシート)</li> </ul>